

科目名	言語教育学特殊研究	担当者	ホサカ 保坂 トシコ 敏子	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>グローバル化が進展し、世界的な人の移動が盛んになった現在、言語教育のあり方が問い直されている。本講義ではグローバル時代の言語教育の在り方をクリティカルな視点から検討する姿勢と、文化観や価値観の異なる相手と共生するための言語教育について提案できる能力の涵養を目的とする。具体的には、日本の英語教育に対するクリティカルな論考と日本語教育に対するクリティカルなアプローチ、さらには、ヨーロッパの言語教育が目指す方向性に触れることで、現在の言語教育に関する問題意識を深め、自分自身のフィールドの問題点を見出し、授業計画が立案できるようになることを目的とする。</p>		
到達目標	<p>文献講読を通して、グローバル化社会の教育に対するクリティカルな視座、並びに、ヨーロッパで提唱されている市民性形成のための相互文化的能力を育む言語教育という視座について理解し、それが説明できるようになること、また、自分自身の言語教育の現場について、クリティカルに検討し、改善点が考察できるようになることを目標とする。</p> <p>また、これを踏まえて、履修者自身が関わる言語教育領域に対して、最終的には、自分自身のフィールドが目指すべき言語教育の方向と具体的なカリキュラム（案）・コース（案）を作成することを目標とする。</p>		
学修方法	<p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 基本教材1を講読し、必要に応じて参考図書やその他の文献をさらに講読して課題レポート1を作成する。 基本教材1の論考を参考に、自分の教育現場について批判的に検討する。 <p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> 基本教材2を購読し、必要に応じて参考図書やその他の文献をさらに購読して課題レポート2を作成する。 課題レポート1で得られた知見を基盤に、自分の教育現場が目指すべきカリキュラム（案）・コース（案）を作成する。 <p>★課題レポートは、教師のフィードバックを受けて修正する。修正した課題レポートについて、ピア・ラーニングを行い、さらに推敲を加える。再提出したレポートについて、教師の確認を受けて、最終稿として完成させる。</p>		
スケジュール	<p><前期></p> <ul style="list-style-type: none"> レポート課題1 締切：6月末 レポート課題2 締切：9月課題提出締切日 <p><後期></p> <ul style="list-style-type: none"> レポート課題1 締切：11月末 レポート課題2 締切：1月課題提出締切日 		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	論旨明確さ、内容の妥当性・独創性、構成・文章表現の妥当性、引用文献の適切性等
	平常評価	20%	ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応等
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> レポートは、草稿から最終稿にいたるまで、教師のフィードバックによる書き直し、ピア・レスポンスによる推敲、最終稿の完成と段階的に進める。このため、草稿の提出は締め切りより遅くならないこと。 レポートでは、引用部分を明示すること。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 久保田竜子 教材名： 『グローバル化社会と言語教育 クリティカルな視点から』 (くろしお出版, 2015年) ISBN:978-4-87-424668-9 2,600円+税
	本書は、多様性社会における日本の英語教育をめぐる問題と現在の日本語・日本文化教育の問題について、クリティカルな視点から分析して論じるだけでなく、言語教育の方向性についても具体的に提言を行っている。筆者は、日本の英語教育と北米の日本語教育に関わってきた北米在住の応用言語学の専門家で、英語の論文を日本語に訳したものである。複数の教育環境で、複数の言語を教えてきた知見であり、語種に関わらず、グローバル時代の言語教育を再検討する刺激となる。
参考図書	・久保田竜子著 佐藤公治他訳 『英語教育と文化・人種・ジェンダー』(くろしお出版, 2015年) ISBN:978-4-87-424669-6 2,600円+税 ・言語教育の「商品化」と「消費」を考えるシンポジウム運営委員会(編集)『言語教育の「商品化」と「消費」を考えるシンポジウム 報告集 Kindle版』(Amazon Services International, Inc., 2016) ASIN: B01MEF9WNE 308円 Kindle 価格
履修上のポイント	多様性社会における言語教育の問題について、英語教育、あるいは、日本語教育など一つの言語の問題をとってはならず、多様な言語を視野に入れた、幅広い視点から検討すること。自分が従事する言語の教育と他の言語の問題と比較しながら、視野を広めた上で、自分のフィールドの問題についての論考を深めていただきたい。また、基本教材1で採り上げた問題以外のものについても理解を深めるため、参考図書にも触れていただきたい。
レポート課題 1	基本教材1の中で指摘されている、日本の英語教育と、現在の日本語・日本文化教育の問題点について3つ取り上げ、それぞれ筆者の主張をまとめて、それに対する自分の考えを論じること。(3,000字~4,000字) 留意点： 筆者のクリティカルな論考について、クリティカルに論じること。
レポート課題 2	基本教材1を参考に、自分が携わる言語教育のフィールド、あるいは、自分か今まで受けてきた言語教育の問題などを取り上げ、クリティカルな視点から論じること。(3,000字~4,000字) 留意点： 基本図書の章のタイトルを参考に、問題とするテーマを絞って、論を展開すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： マイケル・バイラム(著) 細川英雄(監修) 山田悦子・古村由美子(訳) 教材名： 『相互文化的能力を育む外国語教育—グローバル時代の市民性形成をめざして—』 (大修館書店, 2015年) ISBN:978-4-46-924596-7 2,800円+税
	本書は、CEFRに代表されるヨーロッパの言語教育政策を牽引してきた重鎮バイラムが2008年に発表した『From Foreign Language Education to Intercultural Citizenship: Essays and Reflections』の全訳である。言語教育が、文化を含め市民性の形成、社会参加などの広い枠組みでとらえなおす必要性を主張するものである。言語教育の政治性についても明快に示している。
参考図書	・細川英雄・尾辻恵美・マルチェッラ・マリオッティ(編集)(2016) 『市民性形成とことばの教育—母語・第二言語・外国語を超えて』(くろしお出版, 2016年) ISBN:978-4-87-424705-1 2,800円+税
履修上のポイント	筆者の「外国語教育はスキルの伝授で終わってはならない」という主張の理由や背景を、参考図書も参照しながら考えること。
レポート課題 1	基本教材2の2章、3章で指摘されているに日本の英語教育の問題点を整理した上で、バイラムが主張する「相互文化的市民性」の概要と意義をまとめ、それに対する自分の考えを論じなさい。(3,000字~4,000字) 留意点： 「相互文化的市民性」の育成を主張する背景など、誕生の背景や目的、具体的な方法など、要点をわかりやすくまとめること。
レポート課題 2	基本教材2の論考を参考に、グローバル化時代において、自分の言語教育のフィールド、あるいは、日本の言語教育は何を目指すべきかについて検討し、その目的を達成するために必要なカリキュラム(案)やコース(案)を作成して、その期待される効果について論じる。(3,000字~4,000字) 留意点： カリキュラム(案)やコース(案)が具体的に思い浮かばない場合は、GSSCの講義概要の枠組みを参考にすること。